

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2023年8月9日
明治大学の所属学部・研究科	国際日本(学部/ 学科/ 研究科/ 専攻等)
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2023年7月23日
明治大学卒業予定年月	2024年3月
留学先大学について	
留学先国	マレーシア
留学先大学	マラヤ大学 (日本語名) Universiti Malaya(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	マレー語・英語/英語
留学期間	2022年9月～2023年7月
留学先大学で在籍した学年	特定の学年に在籍しなかった 年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語): (現地言語での名称): <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 記入例: 1 学期/4 月上旬～7 月下旬、 2 学期/9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 10 月上旬～2 月下旬 2 学期: 3 月上旬～7 月中旬 3 学期: ~ 4 学期: ~
学生数	24,872 人
創立年	1962 年(現在のクラルンプールのマラヤ大学創立年)

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (マレーシア リンギット)	日本円	備考
授業料	1260RM	37,800 円	協定留学のため学期ごとの Admin Fee のみ
宿舍費	7,430RM	222,900 円	学生寮 1 学期分 2880RM 学外コンドミニアム 1 学期分 910RM×5か月
食費		250,000 円	一月 25000 円程度
図書費	ORM	0円	
学用品費	ORM	0円	
携帯・インターネット費	300RM	9,000 円	プランによるが月30RM くらい
現地交通費		円	(<input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		300,000 円	主に海外旅行
被服費		円	
医療費	ORM	0円	
保険費		118,150 円	形態: 明治大学で加入の海外旅行保険
渡航旅費		107,400 円	
ビザ申請費		3,348 円	
雑費		30,000 円	
その他		円	
その他		円	
合計		1,077,608 円	内明治大学からの助成金 300,000 円

渡航関連

渡航経路	
往路 出発地:東京(成田) 目的地:クアラルンプール(KLIA) 経由地:シンガポール(チャンギ)	
復路 出発地:クアラルンプール(KLIA) 目的地:東京 経由地:マニラ	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金:	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:シンガポール航空 料金:78,960 円 復路 航空会社:フィリピン航空 料金:28,441 円 ∴合計:107,401 円	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:)	
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:スカイキャナーから航空会社の公式サイトで購入)	
<input type="checkbox"/> その他()	
滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)	
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:kk10) <input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ	
2)部屋の形態	
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 寮:2人 アパート:3人)	
3)共有部分	
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
4)住居を探した方法:	
寮:大学からのEメールを見て申し込んだ。 アパート:1学期前から滞在中の先輩の紹介。	
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
<p>住居環境にこだわりがある人は滞在先を十分に検討することをお勧めします。 私は1学期は学内の寮(kk10)に、2学期は大学近くのコンドミニアムに滞在中でした。以下私が思う利点と欠点を挙げておきます。</p> <p>kk10 利点 ・他の留学生が常に周りにいる環境なので特に最初は安心。 ・Music room が利用可能。ドラムやマイク等の設備がある。友人たちとセルフカラオケをしたり、その部屋で誕生日会が開かれました。エアコンも完備されていて寮内で一番環境が良かったです。 ・学内のカフェをよく利用しましたがローカル価格なので外食でも食費が安く済みます。</p> <p>欠点 ・共有のシャワールーム、トイレが日本のように衛生的とは言えません。これに耐えられず早々と引っ越していく日本人学生が多かったです。5つのうち2つのシャワールームはお湯が出ます。 ・キャンパスの一番奥にあり学外に出るのに不便。 ・部屋にエアコンがなく、天井のファンのみ。気温は平気でしたが、湿気が凄く革靴のカビが生えました… ・キッチンや冷蔵庫はフロア毎に共有なので不便。冷蔵庫に入れたものがなくなるといった苦情がしょっちゅうあったので私は一回も使わなかったです。 ・猿が出没する。ゴミ箱を漁っているところによく遭遇しました。滅多にあることではありませんが場所によっては部屋に入ってくることもあるようです。(女子棟ではこのような話は聞きませんでした。) ・ランドリーが混雑する。寮全体で当時はランドリーが2つしかなく、タイミングによっては長時間待たなくてはならない時もありました。</p>	

コンドミニアム

利点

- ・とにかく環境が良い。大学、駅もショッピングモールも近くにある。ジムやプールも使用可能。ルームシェアをすれば家賃も日本に比べてかなり安く抑えられます。
- ・セキュリティが万全。
- ・自炊ができる。

欠点

- ・私の場合は日本人の先輩の滞在先を引き継いだので、オーナーとの連絡もスムーズでしたが、一から探すとなると契約面で問題が生じることがあると思います。マレーシアの物件は、ホームページ等に物件が掲示されていて興味があったら直接オーナーの方にワッツアップでコンタクトして話が進められます。間にエージェントが入らないことも多いため信用面で不安要素があり、何か揉めた時の対処が難しい場合もあります。

International House (学外寮)

住んだことがないため詳細は分かりませんが、基本的な情報としては

2・3人で共有の寝室と、5・6人で共有のリビング・キッチンがあると聞きました。立地としては大学からバスが出ていますが、やや遠いイメージです。寮の近くにはショッピングモールやマーケットがあるそうです。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例: 現地の病院、学内の診療所)

- なし
 あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

- なし
 あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

特に危険に巻き込まれたことはないです。現地の人からはよくスリに注意するよう言われました。野良犬がいるので目を合わせないように心がけました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

学内は Wi-Fi が使えます。また、マレーシアはデータ利用が安く、無制限プランでも月 1200 円くらいです。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

銀行口座は開設できないので、Wise カードを使用した。日本の銀行口座から Wise のアカウントに日本円を振り込み、それをアプリで両替して現地通貨が調達できます。現金を現地の ATM で引き出すこともでき、手数料もそれほどかからないのでとても便利でした。Wise アカウントがあればアプリ1つで様々な国の通貨を調達でき、旅行先でも重宝しました。家賃のやり取り等の送金も Wise を利用しました。日本にいる時に Wise カードを発行しておけば、まず資金調達に悩まされることはないと思います。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

イオンやダイソー、ドンキホーテ等日本のブランド各社が進出していて、日本製品は手に入りやすいです。現地で調達できないものは特にありません。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
3単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Maritime World and Globalization in Southeast Asia	海洋世界と東南アジアにおけるグローバリゼーション
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts and Social Science, Department of Southast Asian Studies
履修期間	Semister 1
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義・チュートリアル形式の併用 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が3回
担当教授	Dr. Hanizah Binti Idris
授業内容	18 世紀から 20 世紀初頭にかけての東南アジアにおけるグローバリゼーションの文脈における海洋世界の発展に焦点を当てる。前半は、南シナ海、スルー海、マラッカ海峡といった海洋地域のアプローチを通じて、18 世紀から 19 世紀にかけての地域の港湾と海運の発展について議論。後半では、地理、港の機能、地域の港の発展に寄与する要因などの重要な側面について議論。最後は、19 世紀における国際貿易の急速な発展と、この地域における近代的な港の開港ととの関係について説明。更に、持続可能な開発を含む 20 世紀初頭のグローバリゼーション時代における競争、インフラ開発及び技術の観点から、この地域の主要港が直面する主な課題を分析。
試験・課題など	12ページ程度のがエッセイ1つ、 エッセイと同じテーマの個人プレゼンテーションが1回、 対面での期末テスト有。
感想を自由記入	教授は穏やかで優しく、現地の学生にも人気のある方だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Ethnicity, Identity and Politics of Minorities in Southeast Asia		エスニシティ、アイデンティティと、東南アジアにおけるマイノリティの政治問題	
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts and Social Science, Department of Southeast Asian Studies		
履修期間	Semester 1		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義とチュートリアルの併用 (チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回		
担当教授	Dr. Mala Rajo Sathian		
授業内容	東南アジアのマイノリティに関する問題を 3 つのパートに分けて検討。第一部では、カレン族、ロヒンギャ族(ビルマ)、マレー族(タイ)、モロ族(フィリピン)、チャム族(ベトナム)、クリスチャン・ミナサ(インドネシア)などの民族的・宗教的少数派の問題、アイデンティティ、政治について議論。第 2 部では、東南アジアの先住民マイノリティ(ボルネオ)、移民マイノリティ(中国系、インド系)について、歴史的要因や国民国家の形成過程と、これらの国民国家における彼らの地位とを関連づけながら論じる。最後に、マイノリティに対して国家が採用した政策やアプローチと、その後の自治要求や分離主義運動の台頭を取り上げられる。		
試験・課題など	Book Review 等の課題が数回あった。試験はオープンブックで、エッセイクエスチョンが 3 題形式で期間内に回答するオンライン形式で行われた。		
感想を自由記入	マイノリティの問題を通して、東南アジアに存在する様々な政治形態や宗教、歴史等を網羅的に学びました。「多様性」を別の側面から眺めるような授業だと感じた。教授が凄くエネルギーが豊富で毎週難しい課題のグループプレゼンが課され、私が受講した中で最も困難な授業だったが、授業を通し得られるものは大きい。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Elementary Malay		初級マレー語	
科目設置学部・研究科	Faculty of Languages and Linguistics		
履修期間	Semester 1		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 180 分が1回		
担当教授			
授業内容	初心者向けのマレー語入門。簡単な日常会話ができるようになります。		
試験・課題など	中間テスト、期末テスト(対面)		
感想を自由記入	渡航前に少しマレー語を勉強していたので難易度はそれほど高くなかった。寮のカフェでは英語が伝わらないこともあったので、数字や簡単な会話を覚えて活かす場面があり、モチベーションになった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Urbanization and Environment		都市化と環境	
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts and Social Science, Department of Geography		
履修期間	Semester 2		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義とチュートリアルの併用(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 180 分が 1 回		
担当教授	Dr. Mariney Binti Mohad Yusoff		
授業内容	都市化が環境にどのような影響を与えるかについて議論する。大気圏・岩石圏・水圏・生物圏などのあらゆる環境要素に注目し、都市化への影響を学ぶ。更に、都市化が人間の生活の質に与える影響を評価。		
試験・課題など	エッセイ2つ		
感想を自由記入			

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Southeast Asian Region 2		東南アジア入門2	
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts and Social Science, Department of Southeast Asian Studies		
履修期間	Semester 2		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義とチュートリアルの併用(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 180 分が1回		
担当教授	Dr. Mazlan Majid, Dr. Hanizah Binti Idris		
授業内容	前半は、気候や植生などに注目し、地理的な側面から東南アジアの特徴について議論。後半は、地域の経済を第一次・第二次・第三次産業それぞれの分野に焦点を当てる。更に、第三セクションでは、町の成長と発展、移住及び関連する都市問題に注目。最後は ASEAN の設立、地域協力の様々な手段及び、ASEAN と世界との関係を考察する。		
試験・課題など	エッセイ2つ、テスト 2 回		
感想を自由記入	一学年対象のコースで、東南アジア地域の基本的な情報を学べる。二部に分かれていて担当教授も変わるため、評価基準となる課題や試験も 2 回ずつある。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
China-ASEAN Relations			
科目設置学部・研究科			
履修期間			
単位数			
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義とチュートリアルの併用(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 180 分が1回		
担当教授	Dr. Nur Shahadah Jamil		
授業内容	ASEAN 加盟国と中国との関係の変遷を議論し、ASEAN 諸国の経済、政治、社会の発展における中国の重要性を評価。また、中国とマレーシアの交流について、貿易・投資、政治・安全保障、社会・文化的側面から議論。		
試験・課題など	エッセイ・プレゼンテーション 1 回 クイズ 2 回		
感想を自由記入	中国の対外関係を ASEAN の視点から学ぶことは、米国や日本を ASEAN がどのように捉えているのかを知ることに繋がり、多角的な視点を養うという意味で、日本人留学生にとって非常に意義のある内容だったと感じる。また、ASEAN の存在意義や仕組みを知ることができた。3年該当科目であるため授業の内容は専門的で、講義はとにかくスピードが早く、エッセイやプレゼンも広範囲を網羅したより高度なレベルを求められた。現地の学生は専門的に国際関係を学んでいる人が多く、プレゼン等も非常に完成度が高かった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
An Introduction to Malaysian Indian Family Systems		インド系マレーシア人の家族システム論	
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts and Social Science, Department of Indian Studies		
履修期間	Semester 2		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義とチュートリアルの併用(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 180 分が 1 回		
担当教授	Dr. Nithiya A/P Guna Saigaran		
授業内容	インドの家族制度に関連する理論を社会学的な観点から解説。マレーシア・インド人におけるインド系家族制度について議論する。家族運営、家族の地位、役割、強さについて、伝統的な側面と現代的な側面の比較を含む議論をする。マレーシア・インド人の家族制度における工業化、都市化、教育化の過程について分析する。		
試験・課題など	簡単なエッセイ形式のクイズが学期中 4 回、エッセイ 1 回、対面の期末テストあり		
感想を自由記入	小規模のコースで、5 人中留学生は私のみだった。授業初日に、元々マレー語で開講予定だったが私が登録したため英語開講にしたと言われた。教授がとても熱心で親切な方で、授業が理解できているかや課題についての助言等、本当に親身になってサポートして下さい。インド系マレーシア人の家族制度という、日本の東南アジア地域研究ではあまり踏み込むことのない領域かつ、学生や教授もインド系マレーシア人が 3 人、1 人が中華系の学生で、小規模ながらもそれぞれの経験や視点を共有しながら理解を深めていくことができ、とても興味深かった。		

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

3・4年の留学は、新卒一括採用の流れではやはり障害になるタイミングだとは思いますが、それが原因で留学を諦めるのは勿体ないと思う。留学前に、情報収集や計画を立てて行動することが大事だ。留学期間中に内定を貰った人もいれば帰国後就職活動を始める人など様々な人がいるので、留学していても自分のペースで就職活動を進めることができると感じた。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	
留学開始年	1月～3月	
	4月～7月	ビザ申請手続き・滞在先決定
	8月～9月	渡航
	10月～12月	授業開始
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	期末試験、帰国
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

私は、特に強い希望でマレーシアを留学先として選んだのではありませんが、当時の私の選択は大正解だったと思います。協定留学応募当時に希望した理由としては、第二言語として英語が使用されている国や、多民族社会で、経済的にも発展している最中の東南アジアという地域に興味があったこと、マラヤ大学は留学生が選択できるコースの選択の幅が広いこと等がありました。

以下、10ヶ月経って、私が思うマレーシアに留学して良かったと思う点を挙げておきます。マレーシアはマレー系、中華系、インド系、多くの先住民族、そして外国人が共生している社会で、街を歩けば聞こえてくる言語は様々です。そうした環境で生活するということが新鮮でした。そうした環境だからか、外国人にとってもとても過ごしやすい環境です。ありがたいことに、日本のことが好きな人が多いことも安心材料の一つだと思います。治安に関しては、クアラルンプールで危機を感じたことは一度もありません。夜遅くに1人で出歩かない、スリには警戒するなどの常識的な注意を払えば、問題なく生活できると思います。

公用語はマレー語ですが、英語が広く通じます。英語ネイティブの人は少なく、ほとんどの学生が第二・第三言語として英語を話しているため、英語が不安な日本人にも優しい環境です。それでは語学力向上ができないのではないのか、と思う方がいるかもしれませんが、そんなことはありません。授業はほとんど英語で行われますしプレゼンなどの発表の機会やエッセイ等の課題も大量に課される他、英語圏から来る海外留学生も多いため、語学力を伸ばすことは行動次第でいくらでもできると思います。想像していた通りアジア圏からの留学生は多かったです、ヨーロッパ圏からの学生も多かったです。

それから、これはマラヤ大学という国内トップの大学だったからか、ローカルの学生の多くは学業に対して非常に熱心に取り組んでいて、刺激になりました。また、マラヤ大学は、留学生へのサポートが手厚いです。パティの方や事務の方など、メッセージを通じて心配事はすぐに相談できる環境が整っています。

私は、帰国子女でもないし、大学受験英語レベルからスタートし、国際日本学部に入ってから留学可能レベルの語学力を身につけました。もちろん元々の語学力はあるに越したことはないですが、それを理由に留学にハードルを感じて諦めてしまうのは勿体ないので、とにかくまずは挑戦してみたいです。

マレーシアや東南アジアへの留学を検討している方へ

想像はできると思いますが、東南アジアに留学する日本人学生が悩まされることは衛生面の問題が大きいと思います。私は心身共に適応力があつたため(か感覚が鈍いのか)、それほど悩まされませんでした。寮の環境に耐えられなかったり、食べ物にあたりたり、食中毒になる人がいました。心配な人は、住居に関してはよく検討することをお勧めします。肝炎や狂犬病などの予防接種等は、義務ではありませんが、公的機関からは推奨されています。私は情報を知った時には、渡航に間に合わなかったので何も接種しませんでした。各予防接種は一回では終わらないので、不安な人は早くから(渡航の半年前ぐらいから)検討すると良いと思います。

目標が明確ではない、語学力が不安など、心配事は色々あるかもしれませんが、少しでも興味があるのなら是非海外留学にチャレンジしてほしいです。今の時代どこにいても語学力を伸ばすことはできますが、外に出て、異文化を体験し、自分とは異なるバックグラウンドの学生等と学ぶ、人間関係を構築することができるという点においては、海外留学でしか身につけられないことがあると思います。